

令和2年産ぽんかん出荷終了

着色進み高糖度 品質良好



JA管内では、12月1日から開始されていたぽんかんの出荷が終了しました。

程よい酸味と濃厚な果汁が特徴のぽんかんは、管内で26箱を作付しており、その内25箱は、屋久島地区で大半を占めています。

今期の出荷数量は、104トとなりました。

10月の台風襲来で、一部風傷果の被害があった

ものの、11月は生育環境に恵まれたことで、糖度は10・9度と品質良好なぽんかんに仕上がりました。

出荷されたぽんかんは、JAぽんたん館や地元のアコープ、直販などで販売されました。

販売高は3,424万円(前年比△125万円)と前年対比では落ち込んだものの、近年にない高単価での取引となりました。



馬鈴薯出荷開始

大玉中心収量に期待

JA管内では、1月18日より馬鈴薯の収穫が始まりました。

今期は、11月中旬の気温の上昇により、一部で青枯れや疫病の発生が見られたものの、その後は天候に恵まれ、生育は順調となりました。2L中心で、平年以上の収量が期待されます。

西之表支所営農販売課森山宏樹課長は「計画的な集出荷体制により安定した販売に努めたい」と話しています。

出荷は、4月下旬頃まで続き、生産者234人で約3,000トを関東市場を中心に出荷する予定です。



スナップ出荷ピーク

気温安定し出荷量増

JA管内の集荷所では、スナップエンドウの出荷がピークを迎えています。

連日、収穫されたスナップエンドウ約5トを作業員が手作業で選果し、くみあい食品を通じて大型スーパーなどで販売されています。

今期は、植え付け当初に乾燥の影響があったものの、病害虫も見られず品質、量ともに昨年を上回る見込みです。

出荷は、4月中旬頃まで続き、生産者151人で約360トを出荷する見込みです。

